

サポート

No. 172

令和2年11月13日発行

秋田県教育庁特別支援教育課 指導班

秋田きらり支援学校 創立10周年を祝う会

輝く10年 ～なかまとともにつなぐ未来～

令和2年10月9日、秋田きらり支援学校は「創立10周年を祝う会」を開催しました。

第1部セレモニーでは、多年に渡り本校教育活動に御尽力いただいた方々を表彰しました。新目校長は、「多くの県民の皆様を支えられて10年の歩みを進めていることに感謝し、校名に込められた願いを胸に、さらなる輝きを求めて前進しよう」と挨拶しました。また、児童生徒を代表して高等部2年生牧野由芽さんが、「一人一人が輝くために伝統のバトンを引き継いでいきたい」と決意を述べました。第2部アトラクションでは、中学部・高等部の合奏と合唱、トリオ・ドルチェミニコンサート、秋田県民歌の合唱を披露しました。

新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、10周年に関わる絵画作品や総合的な探究の時間のまとめ、中学部・高等部合同で練習した合奏や合唱を、学校を応援してくださる多くの方々、同窓生、保護者の皆様に披露できなかったことは大変残念でした。

しかし、この困難さの中で、児童生徒会が中心となって周年事業を盛り上げる気運が高まりました。多くの行事が中止となる中、友達とつながる楽しさと大切さを痛感したのです。全校で思い出や未来への抱負を綴ったメッセージカードを貼って「きらりの樹」を制作したり、祝う会の司会や記念品贈呈の係を分担したりしました。また、記念品製作でも全校が協力しました。小学部では記念品を入れる手提げ袋の挿絵を描きました。中学部では紅白の「油グッバイ」（調理済み油処理製品）を、高等部では巾着袋と組木ストラップ（聴覚支援学校とのコラボ製品）を製作しました。節目の年、「創立10周年を祝う会」は、仲間としての意識や伝統を引き継ごうという気持ちを強くする機会となりました。

本校の礎を築いてくださった多くの方々に感謝し、本校の歩みや「創立10周年を祝う会」の様子、お祝いのメッセージをまとめた記念誌を12月に発刊予定です。御期待ください。

(秋田きらり支援学校 教諭 木村 淳子)



校長挨拶



中学部・高等部合唱「Journey to Harmony」

インクルーシブの風

このコーナーでは、インクルーシブ教育システム（※）の推進の観点から、各校種等における特別支援教育に関する取組や交流及び共同学習の様子などを紹介していきます。

※インクルーシブ教育システム

人間の多様性の尊重等の強化、障害者が精神的及び身体的な能力等を可能な最大限度まで発達させ、自由な社会に効果的に参加することを可能とするという目的の下、障害のある者と障害のない者が共に学ぶ仕組み

小・中学校における特別支援教育の充実に向けて 特別支援教育セミナー ～ 八郎潟中学校 通常の学級における実践 ～

平成15年度から行っている特別支援教育セミナーは、障害等のある児童生徒が在籍する小・中学校等に、教育事務所・出張所の特別支援教育担当指導主事と特別支援学校の教員等が訪問し、授業研究会や、各校のニーズに応じた校内研修会を実施しています。通常の学級、通級指導教室、特別支援学級における担当教員の実践的指導力の向上とともに、全校で特別支援教育について理解を深めることができる研修です。

通常の学級におけるセミナーを2回実施した八郎潟町立八郎潟中学校の実践を紹介します。

<授業> 1回目は、理科の授業が提示されました。教師の指示、説明、板書などがきちんと整理されていました。生徒にとって、聞く、書く、考える、話し合うなどの学習活動について、今、何をするのが分かりやすい手立てが講じられていました。例えば、教師が説明をする場面で、「鉛筆を置いてこちらを向いてください。」という指示は、生徒が確実に聞く状況をつくることができます。場面に応じて、生徒が学習中の思考や課題遂行に集中できるような配慮がされていました。

2回目は、外国語の授業が提示されました。めあてとして本時のゴールを示したあと、ゴールに向けて活動の手順を明確に示しており、生徒の考える道筋に配慮した授業でした。学習活動の手順を明確にすることは、段取りを考えることが苦手な生徒が、具体的な指示がない状況で順序よく活動を進めるのに効果的です。さらに、板書の内容を整理するとともに必要な情報を書き留めておくことは、活動をしている間に、大事な情報や次に行うことを忘れてしまいがちな生徒には有効な手立てとなります。

<研究協議会> 2回とも職員全員が参加し、生徒の的確な実態把握、特別な支援が必要な生徒の進路指導、保護者との合意形成、生徒の自己理解を促す指導、周囲の生徒への配慮、障害理解などについて、情報交換しました。

☆教科担当間で支援を共有

「実態（可能な活動と困難な活動）」「現在行っている支援」「今後さらに必要とする支援」について、教科ごとに記載された一覧表を作成しており、全校職員で対象生徒の情報を共有しながら、指導に当たっていました。

小・中学校等の通常の学級では、学級経営、学習指導、生徒指導等の研修が行われています。これに加えて、特別支援教育の研修を行うことは、障害の有無にかかわらず多様な子どもたちの理解や対応につながります。 (中央教育事務所 指導班 指導主事 佐川 透)



交流及び共同学習の取組について ～ 能代支援学校 居住地校交流を通して～

本校には「居住地校交流ガイドブック第2版」があります。このガイドブックは、能代山本4市町の教育委員会と共同製作したもので、共生社会の実現に向けた居住地校交流の意義や位置付け、居住地校交流を進める上での小・中学校、本校の役割や進め方、出前授業や交流の実際、交流時の留意点等について、たくさんの写真と共に紹介しています。能代山本地区の小・中学校に配付し、交流時のねらいの設定や学習活動の打合せ時に活用しています。また、本校小・中学部の保護者にも配付し、年度初めの個別面談等で担任から説明し、理解啓発を図っています。今

年度も小学部1年生2名、中学部1年生7名が新規に居住地校交流を始めました。本ガイドブックは本校ホームページに掲載してありますのでご参照ください。

今年度はコロナ禍のため、居住地校交流の実施が心配されましたが、地域の小・中学校の理解もあり、感染防止対策を講じながら、小学部児童11名（小学校6校）が、小学校の図工、体育、外国語活動の授業に、中学部生徒10名（中学校5校）が、中学校の総合的な学習の時間や生徒会活動に参加しました。中学部の生徒3名が参加した生徒会活動の資源回収では、最初に教師が意図的に関わりのきっかけをつくと、その後は作業が軌道に乗るにつれ、活動の中で生徒同士で声を掛け合ったり、回収した資源のやり取りをしたりするなど自然に関わり合う様子が見られるようになりました。活動を通して、地域の同年代の仲間の中で、臆することなく黙々と作業に取り組む姿を見ることができ、地域を支える人材として頼もしく感じました。

今後も、本校の児童生徒と地域の児童生徒が相互に人格と個性を尊重し合える共生社会実現のために、積極的に居住地校交流を展開していきたいと考えています。

（能代支援学校 教諭 船山 真生）



おめでとうございます

第56回全県花だんコンクール受賞校

○学校の部

- 「秋田県教育長賞」 県立比内支援学校かづの校
- 「秋田県教育長賞」 県立比内支援学校たかのす校
- 「優良賞」 県立能代支援学校
- 「優良賞」 県立大曲支援学校
- 「モデル花だん」 県立比内支援学校
- 「モデル花だん」 県立支援学校天王みどり学園

第38回秋田県学校農園展受賞校

- 「最優秀賞」「秋田県知事賞」
- 「NHK 秋田放送局長賞」 県立栗田支援学校
- 「優秀賞2席」「家の光協会会長賞」
県立大曲支援学校
- 「優良賞」 県立比内支援学校
- 「優良賞」 県立比内支援学校かづの校
- 「優良賞」 県立能代支援学校